

農大有機 NEWS

第4号

発行；平成29年2月 島根県立農林大学校

〒699-2211 大田市波根町 970-1

電話；0854-85-7118

HP：http://www.pref.shimane.lg.jp/nourindaigakko/

福間、松原(有機農業専攻)

あいさつ

春待ち遠しい季節となりました。農林大学校有機農業専攻の状況をお伝えします。今年度の専攻学生は13名ですが、水稻部門と野菜部門に分かれ、一生懸命に取り組んでくれました。

水稻部門では、除草に汗してがんばりましたが、初夏の水不足や、収穫時期になると降る雨など、気まぐれなお天道様に悩まされながらの実習となりました。野菜部門では、土づくりに励み、天敵を活用しながらの栽培を行いました。品目によっては苦しみました。

そして暮れには、圃場でとれたものをそれぞれが工夫して料理し、おいしくいただきました。楽しい「収穫祭」でした。日々、農大生がんばってます。

島根県立農林大学校 校長 中村純一

今年度の専攻学生

学生数 1年生7人(水稻2、野菜5)、2年生6人(水稻2、野菜4) 合計 13人

研修生 有機農業実践研修 2人(男1、女1)

実習の研究課題から

有機水稻で一番の課題は除草です。従来、田車と水田草削り用具はったんなどで除草していましたが、今年はチェーンを引っ張って除草する試験を行いました。

今回使用したチェーンは、新潟農業総合研究所で開発されたチェーン除草器の設計書を参考に自分たちで作りました。チェーンが従来品より短く、そのため軽くて水田で引っ張りやすくなりました。

試験では、除草効果と作業時間を田車・はったんと比較しました。結果は表1のとおりです。チェーンは1回の除草につき1往復行い、田植えから17日までに3~4回除草しました。田車・はったんは従来どおり2回除草しました。

チェーンで3~4回も除草に入りましたが、予想以上に作業時間が短縮できました。1回の除草時間は平均約55分/10aでした。田植え後3日目から除草したため、欠株率は田車に比べてやや高くなりましたが、残草は田車に比べてかなり少なくなりました。

次年度は、本格的な試験を行い、卒論にまとめたいと考えています。



チェーン除草の様子



チェーン除草器

【表1】作業時間と残草量及び欠株率の比較

| | 作業時間 (/10a) | 残草量 (乾物 g/m ²) | 欠株率 (%) |
|---------|----------------|-------------------------------|------------|
| チェーン4回 | 3時間45分 | 0.97 | 3.3 |
| チェーン3回 | 2時間47分 | 2.48 | 3.1 |
| 田車・はったん | 14時間06分 | 8.02 | 0.5 |

[研修部門]「有機農業実践研修」2人受講

今年度で3年目となる、「有機農業実践研修」を5月から10月までの半年間週1回、計23回開催しました。今年度は、2人の方が受講されました。基本的に午前中は教室で専門分野の講義、午後は研修ほ場での農業実習を行いました。

10月23日には閉講式を行い、無事2人とも研修を修了されました。

今後は、地元で学んだ事を実践されることと思います。



エゴマの定植の様子

[トピックス] 卒業論文発表会が行われました

1月16,17日に卒業論文発表会が行われました。1年間、各々の研究課題に取組み、この日のために準備を進めてきました。2年生6名の課題は表2のとおりです。野菜の課題は、日頃悩まされている病害虫対策から「コマコシアツツの忌避効果の検証」や土づくりの課題から「有用微生物の効果の検証」などの研究成果を発表しました。水稲では、雑草量と収量・食味・品質の関係、施肥が及ぼす雑草の発生量、食味への影響について発表しました。皆、1年間の成果を上手く伝えることができました。

なお、有機水稲の課題に取組んだ学生が、校内で高い評価を受け、「中四国ブロック国際発表会（松山市開催）」に出場することが決まりました。

【表2】今年度の卒論課題

| | |
|----|--|
| 野菜 | <ul style="list-style-type: none">・有機パプリカ栽培におけるコンパニオンプランツを用いた害虫忌避効果の検証及び品種比較・有機メロン栽培におけるコンパニオンプランツを用いた害虫忌避効果の検証及び菌根菌の導入による生育促進効果・有機野菜栽培の収益性検討・有機栽培ミディートマトの有望品種、適正かん水量及び有用微生物の効果検証 |
| 水稲 | <ul style="list-style-type: none">・有機水稲における除草と施肥の有無による食味等の変化について・有機水稲における安定した食味、収量、品質の米生産のための除草方法の検証 |

[連携農業者情報] 地域農業実習 「いわみ地方有機野菜の会」「木村有機農園」

農大有機農業専攻では有機栽培農家6戸と協力協定を結び、「サテライト校」として設置し、講師として招いたり学生の実習先としてお世話になっています。

今年度は6月21日に、「いわみ地方有機野菜の会」の大畑会長のほ場と三島淳寛氏のほ場を見せていただきました。主に葉物野菜を周年で栽培され、収益性の高い経営を実践されていました。土づくりのほか、販売や経営についても詳しく教えていただきました。

10月24日には、「木村有機農園」を視察させていただき、山間地での有機農業について学びました。冬場はほとんど作物が育たず、播種が少しでも遅れると収穫ができないなど、山間地ならではの問題点を聞かせていただきました。



大畑氏ほ場見学